

平成21年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	再評価の理由	全体事業概要と目的	採択年 目標年	事業進捗状況			事業を巡る社会経済状況等の動向	費用対便益分析結果・コスト縮減の可能性・代替案の検討等	今後の事業の見通し	委員会意見等	対応方針
							総事業費	進捗率	事業進捗内容					
							うち工事費	進捗率						
							うち用地費	進捗率						
河川事業	5	二級河川三滝川 広域河川改修事業	四日市市		<p>【全体事業概要】 全体事業費 14,880百万円 計画延長 (三滝川) L=9,700m (海蔵川) L=4,200m (三滝新川) L=500m</p> <p>・築堤工 L= 16,736m ・掘削工 V=829,733m³ ・護岸工 L= 17,566m ・樋門・樋管 3基 ・橋梁 9橋 ・堰 6基 ・用地補償 1式</p>	H18	14,880	14.0%	<p>【実施事業内容】 ・護岸工L=540m ・橋梁 1橋 ・用地補償 1式</p> <p>【以降事業内容】 ・築堤工L= 16,736m ・掘削工V=829,733m³ ・護岸工L= 17,026m ・樋門・樋管 3基 ・橋梁 8橋 ・堰 6基 ・用地補償 1式</p>	<p>(周辺環境の変化) 中・下流部は四日市市の市街地であり、近鉄四日市駅を中心に市街地が形成されています。また、四日市市中心部に位置することから流域内の土地利用の高度化が見込まれています。上流部は、四日市市郊外に農耕地が広がっています。</p>	<p>B/C = 47.21 河床掘削等による発生土を近隣の他事業に流用する等検討。また、護岸材料、工法の新技術の活用等により、コスト縮減ができるよう検討します。建設機械の排出ガス、騒音等の環境対策に努めます。 代替案は現実的側面からありません。</p>	<p>厳しい財政状況であるものの、随時、改修をすすめ治水安全度の向上を図ります。</p>	<p>事業継続の妥当性が認められたことから事業継続を了承する。ただし、市町の内水排除対策や準用河川整備など、他の主体による事業との連携を密にし、事業推進を図りたい。</p>	継続
							12,963	14.3%						
						H47	1,917	12.1%						

平成21年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	再評価の理由	全体事業概要と目的	採択年 目標年	事業進捗状況		事業を巡る社会経済状況等の動向	費用対便益分析結果・コスト縮減の可能性・代替案の検討等	今後の事業の見通し	委員会意見等	対応方針
							総事業費	進捗率					
							うち工事費	進捗率					
							うち用地費	進捗率					
河川事業	6	二級河川朝明川 広域河川改修事業	四日市市・川越町		<p>【全体事業概要】 全体事業費 10,588百万円 計画延長 L=9,918m ・築堤工 L= 19,884m ・掘削工 V=853,760m³ ・護岸工 L= 19,884m ・道路橋 8橋 ・鉄道橋 1橋 ・水道橋 1橋 ・堰 3基 ・用地補償 1式</p>	S49	10,588	43.0%	<p>(周辺環境の変化) 朝明川中流部については、農耕地が広がっています。下流部については、四日市市、川越町の住宅地等が集中しています。 伊勢湾岸自動車道の開通などにより、流域内の開発が進んできており、今後も、更なる開発が見込まれます。</p>	<p>B/C=29.89 河床掘削等による発生土を近隣の他事業に流用する等検討、また、護岸材料、工法の新技術の活用等によりコスト縮減ができるよう検討します。建設機械の排出ガス、騒音等の環境対策に努めます。 代替案は現実的側面からありません。</p>	<p>厳しい財政状況であるものの、随時、改修をすすめ治水安全度の向上を図ります。</p>	<p>事業継続の妥当性が認められたことから事業継続を了承する。ただし、市町の内水排除対策や準用河川整備など、他の主体による事業との連携を密にし、事業推進を図りたい。</p>	継続
							9,960	43.3%					
						H45	628	39.0%					

平成21年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町村名	再評価の理由	全体事業概要と目的	採択年 目標年	事業進捗状況		事業を進める社会経済状況等の動向	費用対便益分析結果・コスト縮減の可能性・代替案の検討等	今後の事業の見通し	委員会意見等	対応方針
							総事業費	進捗率					
							うち工事費	進捗率					
							うち用地費	進捗率					
河川事業	7	一級河川芥川 総合流域防災事業	鈴鹿市		<p>【全体事業費】 事業区間延長 L=1,800m ・築堤工 L=3,600m ・掘削工 V=93,360m³ ・護岸工 L=3,600m ・橋梁 N=5基 ・樋門・樋管 N=1基 ・床止工 N=1基 ・用地補償 1式</p> <p>【事業目的】 芥川沿川の浸水被害防止を目的に、河道掘削及び拡幅等の改修により流下能力を確保し、治水安全度の向上を図ります。</p>	S60	4,940	60.5%	<p>(周辺環境の変化) 上流部には両岸に水田が広がり、下流部は民家・工場・鉄道が隣接しております。右岸側の鈴鹿川本川との間には東海道の四十五番目の宿として発展した庄野町があります。 芥川流域内における周辺環境の大きな変化はありません。</p>	<p>B/C = 7.97 河床掘削等による発生土を近隣の他事業に流用する等検討、また、護岸材料、工法の新技術の活用等によりコスト縮減ができるよう検討します。建設機械の排出ガス、騒音等の環境対策に努めます。 代替案は現実的側面からありません。</p>	<p>厳しい財政状況であるものの、随時、改修をすすめ治水安全度の向上を図ります。</p>	<p>事業継続の妥当性が認められたことから事業継続を了承する。ただし、市町の内水排除対策や準用河川整備など、他の主体による事業との連携を密にし、事業推進を図りたい。</p>	継続
							2,696	40.4%					
						H40	2,244	84.6%					

平成21年度三重県公共事業事後評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	全体事業概要と目的	採択年度	完了年度		事業の効果	事業の環境面への配慮及び事業による環境の変化	事業を巡る社会経済情勢等の変化	県民の意見	今後の課題	委員会意見概要
						当初	当初						
						最終	最終						
海岸	506	長島海岸城ノ浜地区	紀北町	<p>【全体事業概要】 突堤 N=363m(4基) 護岸 L=560m 離岸堤 L=180m(8基) 養浜 V=69,500m³ 潜堤 L=195m 遊歩道 A=2,240m²</p> <p>異常気象時の高潮・波浪等から海岸背後地の住民の生命・財産を守ると共に、快適な海岸環境を整備し、海岸利用の増進を図るため</p>	S61	H17	4,401	<p>海岸整備前は、高波浪時に越波による被害が度々生じていたが、平成16年度の事業完了後、多数の台風が上陸ないし接近したものの、当海岸では海岸保全施設及び背後の施設等に被害は発生せず、防護機能を発揮することができた。</p> <p>・離岸堤については、海岸の良好な自然環境を保全し、海水浴等々の海岸利用の増進を図るため、二重円筒ケーソン式離岸堤を採用した。この離岸堤の採用により、良好な海水交換による水質保全が期待でき、円筒が形成する曲面のつながりが、柔らかな景観を与え周辺の自然環境と調和する等、環境面へ配慮することが出来た。</p> <p>・当海岸は海水浴場となっており水質調査(COD調査)が行われているが、水質調査の結果は平成13年度以降、最良の判定を毎年獲得していることから、事業開始前や平成13年以前より水質が悪化していることはないものと推定される。</p>	<p>・当海岸の背後は、熊野灘レクリエーション都市が整備されているため、防護の必要性は依然として高い。</p> <p>・高速整備が進められており、平成21年2月には当海岸から約20km離れた箇所に紀勢大内山インターが開通した。東紀州地域へは中部や関西から自動車で訪れる方が多いため、今後も高速整備の延伸により、さらなる移動時間の短縮が期待されることから、これらの地域からの海岸利用者の増加が期待できる。</p> <p>・当海岸に隣接する熊野古道が平成16年に世界遺産に登録され、熊野古道を訪問する観光客からの利用が期待できる。</p>	<p>・平成21年9月 城ノ浜地区の方々(43世帯)に対してアンケートを実施。</p> <p>・安全面に対する満足度 「満足(27%)」+「どちらかといえば満足(40%)」が67%、「不満(0%)」+「どちらかといえば不満(20%)」が20%</p> <p>・環境面や景観面に対する満足度 捨石やブロックを用いた通常の離岸堤に比べコストが増大しても景観面・環境面に配慮した、「二重円筒ケーソンがよい」との意見が74%、「離岸堤がよい」が13%</p> <p>・当事業により地域が活性化されたかという質問については、「活性化が図られた」との意見が40%、「活性化が図られていない」が13%</p> <p>・総合的な満足度 「満足(4人)」+「どちらかといえば満足(6人)」が10人、「不満(1人)」+「どちらかといえば不満(1人)」が2人</p> <p>・不満、改善を要する指摘 災害に対して不安がある。</p>	<p>・事業実施上の課題・問題点 事業着手時には、地元住民との間で十分な意見調整を図る仕組みが確率していなかった。 海岸を利用する際に、現状より快適に利用できるよう、海岸利用者が望んでいる。</p> <p>・事業実施上の改善点 地元の観光部局や、背後の地域の方々に情報提供を行うことにより、何らかの改善策を見いだせるよう、より利用面に配慮した海岸へと改善していく。</p> <p>・今後実施する事業への留意事項 事情効果について分かりやすく、十分な説明を住民の方に対して行う。 計画段階から広く住民の意見を聴き、計画に反映させる。</p>	<p>事業の効果、今後の課題について、事後評価の妥当性を認める。</p>	
						H16	4,224						